



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成  
~~~~ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ~~~~

☆2・3月の目標

☆3つの「あ」

- ※あいさつ
- ※あんぜん
- ※あとかたづけ

☆配布物のお知らせ

・学校便り49号

☆今後の主な予定

- ・3月25日 卒園式・卒業式 修了式
- ・4月 8日 始業式、入園式 入学式

☆四年二組 「フラタナスの木」感想文 河浪 優花

おじいさんが、禾がさか立ち」と言ったのでおどろきました。木は、ふつうに生えているものだと思っていたし、さか立ちした木を想像したことがなかったからです。

マーちゃんたちがサッカーをしていると、おじいさんがフラタナスの木の下のベンチにすわってサッカーをながめていました。マーちゃんたちとおじいさんは、だんだん親しくなり、いつしよに話すようになり親しくある日、いつものようにマーちゃんたちがベンチに集まると、おじいさんが、禾がさか立ちしているところを考えたことがあるかい。」と、不思議なことを言ったので、みんなはびっくりしてしまいました。木は一人で動いたりしないし、私も考えたこともなかったのに、そこにきょう味を持ちました。

地上に生えている枝葉と同じくらいの大さきの根っこが地下に広がっていて、地上のみきや葉っぱに水分や養分を送り、公園や森全体を守っていることを初めて知りました。そして、木は動物たちのすみかになったり、私たちに日かげを作ってくれたり、大雨や台風のととき、土砂くずれをふせいだりといろいろな役目をしています。こんなにたくさん役目をしているすばらしい木々を大切にしないといけないと思いました。



☆四年二組

「マーちゃんたちが切りかぶに乗った」  
せいとう たくま

台風が来て、フラタナスの木がたおれかかってきけんだったから切かぶだけにあってしまいました。けれど、春になれば、また芽が生えてくるので、その間はマーちゃんたちが枝や葉の代わりになるために切りかぶの上に乗って両手を大きく広げたところが心に残りました。

なぜなら、早く元のフラタナスの木になってほしいというマーちゃんたちの応援する気持ちが伝わってきたからです。木の根だけになっても、また芽が出てくることは力強くすごいと思いました。そして、元の大きなフラタナスの木になるまで何年かかるのか知りたくありません。



☆四年二組

「フラタナスの木」 山崎 天歌

みんなが切りかぶに乗ったところが心に残りました。なぜかというところ、みんなが芽が出ると信じているからです。そして、みんなが、立って木をサポートしているからです。マーちゃんたちは、話し合っていないのにマーちゃんと友達のかえは同じでした。みんなが、木のことを思っけて切かぶに乗っているのです。

物語を読んで分かったことは、木は地面の中に同じくらいの大さきの根っこがある事です。自然に対する自分の考えが一つ変わりました。それはいつも強い風がふいていたら、根っこがささえているんだと思うようになったことです。



☆四年二組

「フラタナスの木」

くまざわ しょうま

ぼくがこの物語を読んで心に最も強く残ったことは、台風のあとでフラタナスの木が切られていたことです。ぼくは、さびしく思いました。

初めフラタナスの木には、マーちゃんたちはあまりきょう味を持っていませんでした。あるときから、フラタナスの木の下のベンチにおじいさんが来るようになり、そのうちに、マーちゃんたちとおじいさんは親しくなりました。おじいさんは、禾には大きな根が地面の下にぎっしり広がっていて、フラタナスの木が公園全体を守っている。」と教えてくれました。ぼくも、木になったつもりで、このことを想像してみました。不思議と力がわいてくるような気持ちになりました。

夏休み中に大きな台風が来しました。そして、フラタナスの木は、たおれてしまいました。おじいさんのすがたも見なくなりました。それに、マーちゃんたちのサッカーも前ほど白熱しなくなり、フラタナスの木は、みんなが集まってくる不思議な木だと思いません。何百年の木が台風でたおれてしまいました。フラタナスの木は、公園で起きた出来事や公園に来た子供たちのことを知っていると思います。それなのに、たった一日の台風でたおれてしまいました。自然は、大きな木を育てたり空気をおだやかにしてくれたいと思います。でも、時々強くてこわいものだと感じました。



☆これからの自然との関り

六年一組 松崎 結心

私は、人と自然が関われば、とても便利で暮らしやすい生活になり、人と人との関わりも深くなっていくと思います。なぜかと言うと、人が自然と関わり、もつと暮らしやすい暮らしを増やすために、生活を一つずつ見直していかなければなりません。そのため、家族での会話や知り合いとの会話が自然をもとにしてでてきます。その事から、たくさんの交流が増えていくのではないのでしょうか。そして、周りの人々の交流からもっとたくさんの人との交流が深くなると思います。私の考えは、筆者の述べている考えと似ていると思います。筆者も、自然の仕組みをいかした暮らし方を一から作っていく事を述べているからです。

例えば、アワフキムシのアワから、おふろでアワは体を温めたり体のよごれをおとす事を例にあげ述べています。このような事から、自然と人が関われば人と人との関わりも深くなり、そして自然を使う事で、これからの生活は快適に過ご

☆緑や自然豊かな未来

六年一組 田原 侑来

私の考える理想的な未来は、緑や自然豊かな生活をおくる事ができている、ということだと思います。けれど現実はずっと、資源が減り木などがすぐ貴重なものになっていってしまっていると思います。そう思う理由は、人間は、便利な物を作るためにたくさんの資源を使っているかと思われ、人工の木を植えようという人も減っているか聞いたことがあります。このような事から、資源が減り、木などが貴重になっていくかと思いましたが、筆者は私と異なり、自然の仕組みを生かして資源を節約しているかという考えを持っています。この筆者の考えは、私にとって理想的な未来だと感じました。私が考える理想の未来と現実とはちがうかもしれないけれど、筆者の考えのように資源を節約して緑や自然豊かな未来であってほしいと思います。

☆地球の未来と人との関わり

六年一組 橋本 佳奈

私は、地球の未来はきつと、緑が少なくなっていく地球温暖化が進んでいるかと思う。理由は、よくテレビやニュースで自然が少なくなり、空気が悪くなったりすることを聞くからだ。だが、地球の未来について作者は、人々は資源を節約し、人々が自然との付き合い方をまじめに考えようと書いている。その意見は不可能とは言えないが、不可能に近い。理由は、地球にはたくさんの人がいて、その中の半分以上の人々が省エネや節約に協力しようとして動く、とはとても考えにくいからだ。私は、地球の未来が悪くなる前に、人と人との関わりが悪くなるかと思える。そして、ロボットなどが勢力を持っているかと思う。

理由は、ロボットなどは性能やプログラミング技術が発達していくと、人をこえる可能性があるからだ。そして、関りが悪くなるかと思えることについては、機械が人を超えたかすると、人を必要としなくなるかもしれないからだ。このように、地球では温暖化が進み、人と人との関係が悪化するかと思う。

☆読書感想文「トーマス・エジソン」

五年二組 村重 太陽

ぼくがしようかいする人物は、トーマス・エジソンです。みなさんは、トーマスエジソンが何をしたかを知っていますか。それは、皆さんの生活にとってもかわっているものです。そして、今のこの世界のほとんどの発明品がエジソンの発明品だと言っても、間違っていないかと思えます。

ぼくは、エジソンは、生活をより良く、そして、かいてきにしたことで、すごい人だと本を読んでいて思いました。けれどもぼくは、エジソンのお母さんの育て方が、それに大きく関係しているかと思えます。なぜなら、エジソンのお母さんは、エジソンが何をしてもむやみにしかりつけず、うるさい質問にもしかり答えたからです。だから、エジソンの想像力が豊かになり、電灯やちく音機なども発明で来たのだかと思えます。本を読んでいてぼくは、エジソンに見習いたいところがありました。

一つ目は、あきらめない気持ちです。エジソンは、何度実験に失敗しても、なぜ失敗したのか見直して改ぜんしたので、たくさんの発明品が生まれました。ですから、ぼくも、あきらめない気持ちをもって、良い結果が出るまでがんばりたいです。

二つ目は、両親に感謝することです。一八七一年、エジソンの母ナンシーが、六十一才でなくなりました。そのとき、エジソンは、私の成功は、すべて母のおかげ」といいました。ぼくは、この言葉を讀んだときに、自分のために一生けん命いろいろやってくれる両親を思い出して、泣きそうになりました。なので、両親に感謝をして生きていきたいです。

ぼくが、一番興味を持ったのは、一八七九年の電球の発明です。電球は最初、寿命が四十五時間程度しか持ちませんでした。そのため、エジソンは、ありとあらゆる植物をフィラメントにして実験しましたが、うまくいきません。そこで、エジソンは、やしの葉のうちわに使われている竹を利用してみました。すると、その竹が二〇〇時間の日記録を立てました。ぼくがびっくりしたこと、日本の竹が一番だったことです。そして、その中でも、京都府八幡村の竹が一番良いと分かりました。こんなところで、エジソンの電球と日本の竹がかかわっていると知っておどろきました。そして、エジソンが日本の竹に出会ってなければ、今の電球はなかったのかかと思えました。先日、お母さんがこんなエジソンの言葉を見つけてくれました。

わたしたちの最大の弱点は、あきらめることにある。成功するのに最も確実な方法は、常にもう一度だけ試してみるのだ。」  
ぼくは、エジソンのこの言葉を聞いて、いろいろなことをかんとんにあきらめず、何事もがんばろうかと思えました。

